

2012年度 第4回 農村計画本委員会 議事録（案）

日 時：2012年11月14日（水）17:30～20:30

場 所：建築会館 308 会議室

出席者：委員長 岡田知子 (敬称略)
幹 事 神吉紀世子 (Skype 参加)・北澤大佑 (文責)
委 員 後藤隆太郎・斎尾直子・重村 力・中島熙八郎・柳田良造・
山崎義人

I. 確認事項

- ・ 第3回本委員会（9月12日）の議事録を確認した。

II. 報告事項

1. 学術推進委員会における予算配分方法の見直し案について

- ・ 大幅な予算配分方法の見直しがあり、2013年度の農村計画委員予算は1,125,000円（2012年度から87,000円減）。
- ・ 印刷費用（1回開催で印刷費・通信費で80,000円程度かかる）の削減のため、委員会議事資料のPDF化（PDFスキャン）し、各委員に配信する方法を検討する。
- ・ メール容量の問題があるため、配信方法を検討する必要があるが、5MBを目安に事務局からメール配信を試行する。

2. 2012年度大会（東海）概要報告

- ・ 研究集会などの企画にあたり動員数、資料頒布販売が見込めるような企画立てを検討してほしい（事務局）。
→ 分野横断的なテーマの場合は他部門とのコラボ企画などを検討する。
- ・ 投稿数を増やすため、委員長から各委員へ通知を行う。

3. 研究会「むらを住み継ぐカタチ#01：丹波市青垣」実施計画

- ・ 12月14日（金）に集落居住小委員会にて研究会を企画・開催する。
→ 若手研究者、近畿支部などを巻き込んだ企画に。

4. 「第7回住宅系研究報告会」実施計画見直しへの対応について

- ・ 実施計画の見直しを確認した。

III. 審議事項

1. 学会活動と著作物、著作者名の表記のあり方について

（経緯について）

- ・ 出版物の表紙に「建築学会編」と表記されているが、委員会・小委員会名の記載をして欲しいとの意見がある（刊行規定第3条により委員会名は記載しないこと

となっている)。

- ・ 近年、学会の形式とは異なる出版編集が多くなっていることが問題になっているので検討にあたり、各委員会から意見を伺いたい(事務局)。
 - 個人名が出た方が本も売れる場合もあるため、検索した際に委員会名、小委員会名、個人名でヒットするような工夫をして欲しい。

2. 2013年度大会関係

(1) 研究集会

○都市計画委員会、建築計画委員会における研究協議会の企画

- ・ 都市計画委員会、建築計画委員会で研究協議会(「復興のプランニングⅠ・Ⅱ」)を連続開催する予定(2日目の午前・午後)。
- ・ 都市計画委員会、建築計画委員会の研究協議会に農村計画委員会からメンバーを出して話題提供をして欲しいと打診がある。
 - 研究懇談会・PDとして計画系3委員会で研究懇談会の合同開催を企画できないか。
 - 都市、建築計画委員会で既に研究協議会として企画を進めているため難しい。

○研究協議会(国土計画小委員会)・・・2日目午後

- ・ 国土計画小委員会で『地域構造分析を基礎とするボトムアップ型「国土の計画」の提案』をテーマに、北海道・東北地方を対象に「農(生業)」の視点から新たな方法論を提案し分析、計画に展開していくための議論を行う。
 - 「北海道型の農土計画」を研究協議会(2日目午後)として国土計画小委員会にて企画を進め、テーマ(主題)を早急に再検討する。

○研究懇談会(集落復興再生小委員会)・・・3日目午前

- ・ 被災漁村集落をターゲットにして「津波被災集落のこれからの住まいと集住のかたち」を研究懇談会(3日目午前)として企画する。
 - 農村計画委員会として漁村集落の復興を継続的に取り組んでいくこととし、集落復興小委員会で企画を進めることとする。

(2) オーガナイズドセッション

- ・ 震災復興をテーマに募集する。

3. 推薦依頼関係

(1) 2014年学会賞選考委員会委員(論文部会)候補

- ・ 重村力君(神奈川大)を推薦する。

(2) 2014年日本建築学会奨励賞選考委員会委員候補

- ・ 佐藤栄治君(宇都宮大)を推薦する。

4. 本委員会関係

(1) 文化的景観フィールドスクール 2013「日根荘の里・大木の文化的景観を学」実施計画

- ・ 農山漁村景観小委員会 神吉紀世子主査から実施計画案が説明され、承認された。

(2) 小委員会活動報告・計画について

- ・ 集落復興再生小委員会 後藤隆太郎主査から活動計画案が説明され、資料編纂を東日本大震災合同調査報告書の編纂に注力することとし、計画案が承認された。
- ・ 農山村地域組織形成小委員会 斎尾直子主査から活動計画案が報告され、小委員会での研究成果を活かし 2013 年度の春期シンポジウム（7月）の企画を担当することとし、計画案が承認された。
- ・ 農山漁村景観小委員会 神吉紀世子主査から活動計画案が説明され、海外での国際的 WS の開催にあたっては国内での報告会をあわせて実施することとし、計画案が承認された。
- ・ 集落居住小委員会 山崎義人主査から活動計画案が説明され、「住み継がないカタチ（時々財産管理するケース、譲渡するケースなど）」の視点を組み入れた多様な継承のあり方を視野に入れた研究活動を進めることとし、計画案が承認された。
- ・ 国土計画小委員会 岩田俊二主査（代理 柳田良造君）から活動計画案が説明され、研究テーマの戦略的目標の明確化を図ることとし、計画案が承認された。
- ・ 農村環境共生小委員会 篠崎健一主査については、活動計画案未提出、委員会欠席のため、早急に計画案の提出を北澤幹事より促す。

5. 東日本大震災関係

(1) 『東日本大震災合同調査報告書』

- ・ 後藤隆太郎君より調査報告書の構成、執筆担当案について説明された。
- ・ 岡田知子委員長・三橋伸夫君・重村力君をスーパーバイザーとした査読体制をつくる。
- ・ 2014 年 1 月を最終原稿入稿の期限とし、執筆者からの一次原稿の執筆期間、査読、修正期間を考慮し、さらに情報共有を図るためのシンポジウムなどの開催を組み入れたスケジュールを検討する。
- ・ 建築編 9 のタイトル「建築社会システムと震災」に再検討を要する。
- ・ 「4.4 集落施設・避難施設・避難路の計画」「4.5 防潮堤・津波防波堤・防潮林」「4.6 津波伝承と防災教育」については、現在の課題、問題点を踏まえた論調とし、港湾計画・漁業集落などを専門にする人材に執筆を依頼する。

(2) 東日本大震災復旧復興地域まちづくりのための提言(案)

- ・ 提言内容が確認された。

6. その他

(1) 日韓交流

- ・ 2月末(23、24日) くらいの開催を韓国側と調整する。
- ・ 場所は山口・広島周辺を予定している。

(2) 計画系論文集について

- ・ 論文集委員(神吉紀世子君)より、農村計画分野からの黄表紙への投稿数が減少していることが報告された。

以上